

美しく、華やかに、情熱の色彩

小松原庸子スペイン舞踊団

パッション・デル・フラメンコ

Pasión del Flamenco

構成・演出・振付
小松原庸子

主な予定曲目

マラゲーニャ、火祭りの踊り、カラコレス、
ブレリア・ポル・ソレア、他

フラメンコ舞踊に
新境地を拓く
マルコ・バルガス

卓越した技術と
演技力が光る
ファン・オガジャ

出演

小松原庸子スペイン舞踊団(9名)

男性舞踊手:ファン・オガジャ、マルコ・バルガス

ギタリスト:ファン・カルロス・ベルランガ

歌手:マティアス・ロペス、ミゲル・デ・バダホス

※小松原庸子は出演いたしません。

※予定曲目、出演者は変更となる場合もございます。予めご了承ください。

写真提供:ソル・デ・エスパーニャ

【公演日程】2013年

5/23(木) 6:30p.m. 桐生市市民文化会館・シルクホール

■入場料金: S席 ¥5,000 A席 ¥4,500 【全席指定】 <税込>

■お問い合わせ:

MIN-ONインフォメーションセンター ☎03(3226)9999

■チケットのお求めは:

桐生市市民文化会館 ☎0277(22)9999

電子チケットぴあ ☎0570(02)9999 [Pコード:426-6811]

ローソンチケット ☎0570(084)003 [Lコード:35287]

■主催: (財)桐生市スポーツ文化事業団、MIN-ON

小松原庸子スペイン舞踊団

パッション・デル・フラメンコ

Pasión del Flamenco

芸術の国と言われるスペインにおいても、独特のイメージを培ってきたものがフラメンコです。スペインの貴重な文化財といえる情熱と魅力溢れる芸術フラメンコは、南部アンダルシアに生まれ、育まれ、色とりどりに花開き、現在はユネスコの世界無形文化遺産にも指定されています。

フラメンコは長い歴史から生まれた多様な文化と芸術が、幾重にも重ねられ、その歴史をひもとけば、遠くアラビア時代のスペインに遡ることが出来ます。また一方、インド起源の民族ジプシー（ヒターノ）が作り出したという説もあります。インド起源の民族で、後にはその流浪性からヨーロッパのさまざまな土地に広がり、15世紀の初め、アンダルシアに辿り着きました。

アンダルシアには、以前から、アラブやユダヤの音楽、ビザンチン、ヒンズーの古典音楽、詠み人知らずの歌などが、根づいていました。こうした音楽とヒターノが持ち込んだ音楽から、フラメンコは生まれたものだと考えられています。他にもいろいろな説がありますが、諸説の真意の程はともかくとして、確かなことは、フラメンコが一般民衆から生まれ、紛れもなく民族音楽にルーツを持っている事、それが現代、万人が認める芸術となったのです。

特に15世紀に、スペインに辿り着いたヒターノ達の苦悩や悲しみの声が歌となり、人の心の深くに響く音楽としてフラメンコの芸術性をより高めました。フラメンコは歌から始まり、ギターと踊りが加わり、現代の様式が確立され、総合芸術として、19世紀半ばから開花し、世界的な評価を受けています。

1969年創立の小松原庸子スペイン舞踊団は、わが国のフラメンコ舞踊団として、その芸術の紹介において先陣を切る存在です。原点の文化へ敬意をはらい、品位を重んじ、つねに格調高い舞台を披露します。とりわけ統率のとれた、一糸乱れぬ群舞の完成度と振付には定評があり、国内のみならず、スペインほか諸外国での公演でも喝采を浴びています。さらに創立来、舞踊団はスペインよりあまた有名アーティストを迎え、フラメンコの本質を日本の観客に伝えながら、両国の文化交流に貢献しています。

この公演では、優れた歌手とギタリストに加え、実力派のファン・オガジャとマルコ・バルガスによる白熱の競演も見逃せません。今回は舞台には立ちませんが、フラメンコを知り尽くす小松原庸子が、構成・演出・振付にすべての技と情熱を注ぎ込みます。邦楽・常磐津の名家出身の小松原。「ぜひこの公演を見て、フラメンコの粋と情熱の素晴らしさを知って頂きたい」と語ってくれました。

出演者・プロフィール

小松原庸子スペイン舞踊団

フラメンコをはじめとするスペイン各地の民族舞踊、クラシコ・エスパニョール(スペイン古典舞踊)の継承、又多くの新しい作品を創作する等意欲的活動を続けている。1969年舞踊団創立以来、東京をはじめ日本各地で公演を行いスペイン舞踊の発展に力を注いでいる。主な年間活動には日本全国公演、文化庁芸術活動推進事業のアジア、アメリカ、ヨーロッパ公演、2000年に30回記念を迎えた日比谷野外大音楽堂でのフェスティバル「真夏の夜のフラメンコ」及び秋の芸術祭参加公演等がある。舞踊団員は小松原庸子の指導の下、厳しいレッスンを重ねると共に、本場のマエストロの指導も受け研鑽に励んでいる。国内外の公演において、フラメンコ本来の様式美を湛え、多くの観客を魅了している。2009年には舞踊団創立40周年事業として国内外で公演を行い、続いて2010年スペインでのフラメンコ最大のフェスティバルに出演、そして40周年の掉尾を飾る舞台としてメキシコで公演を行うなど、更なる飛躍を目指している。



ファン・オガジャ
(男性舞踊手)

カディス生まれ、1982年舞台デビュー。1989年ニューヨークで成功した「ジプシー・パッション」に出演。1992年バルセロナ・オリンピック開会セレモニーにおけるクリスティーナ・オオスのパフォーマンスに参加。2001年小松原舞踊団の全国公演「カルメン」でドン・ホセを演じて好評を博し、2002年の民音公演「ビバフラメンコ」でも才能と実力を発揮した。



マルコ・バルガス
(男性舞踊手)

セビージャに生まれ、幼くして闘牛に親しむ。10歳よりバレエ、スペイン舞踊、フラメンコを身につけ、1994年アンダルシア州立舞踊団の創立メンバーに選ばれた。ソリストとして数多くの舞台に立ち、2008年権威あるヒラルディージョ賞を受賞。小松原舞踊団「血の婚礼」東京初演に参加。現代的な振付も手がけ、フラメンコ舞踊に新境地を拓いている。



ファン・カルロス・ベルランガ
(ギタリスト)



マテオ・ロペス
(歌手)



ミゲル・デ・バダホス
(歌手)

